

海外の浄土真宗事情

第1回 海外開教の概要

今回から1年間にわたり、海外の浄土真宗事情を紹介することになりました。現在、海外には開教地域として北米開教区、ハワイ開教区、カナダ開教区、南米開教区の4開教区が組織され、その他にオーストラリア、台湾、ネパール、メキシコの4カ国が開教地に指定されています。開教区・開教地は年月とともに、その国の人々や文化の中に根付いて今日に至っており、伝道教化の方法や寺院・仏教会の運営も国の事情に応じて特徴があります。次号からはそれぞれの開教区・開教地からの報告を掲載します。

海外開教のはじまりは、日本人の海外移民を原点としています。明治維新の頃から、仕事を求めて海外に移住する人たちが増加したと言われています。その中でも、浄土真宗のご法義地と言われる地域からの移民が多かったようです。

移住した人々からの求めに応じ、開教は1886（明治19）年のウラジ

オストクへの派遣から始まります。その後、1889（明治22）年にハワイで、1898（明治31）年に北米で現地調査が行われました。北米では、これを機にサンフランシスコ仏教青年会が組織され、本願寺に本格的な開教活動の要望書が提出されたのを受けて、翌年の1899（明治32）年、開教に着手しました。北米はこの年を開教年として「米国仏教団」と称し、本格的な開教活動が始まりました。

ハワイは、1886（明治19）年に移民が始まりましたが、北米より10年早い1889（明治22）年に「ハワイ本派本願寺」として開教が始まっています。1959（昭和34）年にアメリカ合衆国の50番目の州になった後も、ハワイ開教区として活動が続いています。

カナダは1905（明治38）年の開教以来、北米開教区の中に組み込まれていましたが、1933（昭和8）年に独立し、カナダ開教監督区となりました。

Jodo Shinshu Centers Overseas
国際伝道活動拠点



世界に響くお念仏
May the Nembutsu Resonate
Throughout the World

した。その後、1968（昭和43）年に北米教団総長の監督を離れ、完全に独立した教団となりました。

いずれの開教区においても、太平洋戦争によって過酷な状況にさらされましたが、厳しい状況下にあっても、お念仏のみ教えは絶えることなく今日まで受け継がれています。

南米は、1908（明治41）年に移民が始まり、1920年代から寺院出身者や熱心な門信徒の努力により、各地に法話会の開催や寺院の建立が行われました。1950（昭和25）年に開教区として公式に伝道が開始され、この年を開教元年としています。

開教地は開教区に比べて、歴史も新しく、拠点の数や僧侶数も少ないのが現状ですが、台湾は、戦前には60を超える会所がありました。終戦とともに政府に接収され、以前の「台湾教区」は消滅しましたが、1954（昭和29）年に寺院が建立され、2001（平成13）年に開教地に指定されました。現

在は国内の2カ寺と香港の拠点を中心に活動が行われています。

オーストラリアは、現地日本企業からの要望により1993（平成5）年に事務所を開設し、開教地に指定されました。日系人以外の僧侶も4人になり、英語礼拝や仏教セミナーを通じて活動をしています。また、メキシコでは、1980年代から開教が始まりましたが、宗教法人格の取得の関係から、開教地指定は1994（平成6）年になりました。ネパールは1992（平成4）年頃、福岡教区の一人の門徒の伝道活動を機に、日本全国からの寄付金や宗派の留学生支援等によって、2004（平成16）年から寺院の建設が始まりました。2006（平成18）年に開教地に指定され、2016（平成28）年3月に落慶法要が厳修されました。

浄土真宗の教えは、ヨーロッパの各地にも広がっています。現在、ドイツ、スイス、ベルギー、イギリス、ルーマ

ニア、ポーランドに、1カ所もしくは複数の拠点があり、活動が行われています。これらの地域をヨーロッパ開教地区と位置付け、隔年に「ヨーロッパ真宗会議」や「国際真宗学会」が開催され、情報交換や研究発表が行われています。

海外開教はまだ十分とは言えません。世界の情勢を見ると、紛争が続いている地域、また国の内情等で伝道活動を断念せざるを得ない場合もあります。少しでも多くの地域に、浄土真宗のお念仏のみ教えが伝わることを願ってやみません。

寺院活動支援部（国際伝道担当）